

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 29 年 3 月 31 日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発活動	
企画名	
平成 28 年度街頭イベント『「緩和ケア」があたりまえの世の中になるように ～緩和ケアとは、病気に伴う心と体の痛みを和らげること～』	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
公式ホームページ及び Facebook での事前告知、学術大会での告知ちらし配布、 新聞・公式ホームページへの告知掲載、市役所・開催施設等のラックへのちらし設置、 北海道のがん診療連携拠点病院・患者支援団体等でのちらし配布	
当日の実施内容について	
日時(期間)	2017 年 2 月 5 日(日) 10:00 ~17:00 ※街角緩和ケア講座は 16 時 30 分終了
実施場所	サッポロファクトリー〔札幌市中央区北 2 条東 4 丁目〕
参加人数	一般市民、参加費無料(定員なし)
<p>具体的な実施内容:</p> <p><ステージプログラム></p> <p>◆ 街かど緩和ケア講座: 緩和ケアの各専門家による講演(1 回 20 分/6 テーマ・プレゼンテーション)</p> <p>I. 「緩和ケアとは? ~ 疾病と共に健やかさを生きるために」 有賀 悦子 氏(日本緩和医療学会 副理事長/帝京大学医学部緩和医療学講座 教授・診療科長)</p> <p>II. 「あなたらしい暮らしを守るための緩和ケア」 吉田奈美江氏(カレスサッポロ時計台記念病院・クリニック 主任・がん看護専門看護師)</p> <p>III. 「医療用麻薬の誤解を解く」 久原 幸 氏(株式会社ファーマホールディング事業統括本部 医療連携推進セクション副部長)</p> <p>IV. 「がんを治療しながら仕事を続ける知識と心構え」 市村 通乃 氏(アモール社労士事務所代表 社会保険労務士)</p> <p>V. 「がんになっても一人じゃない~ 支えあいの輪を広げよう」 山田富美子氏(NPO 法人市民とともに作るホスピスケアの会 副代表理事)</p> <p>VI. 「がんのことだけじゃない、人生のことを話し合おう」 阿部 泰之 氏(旭川医科大学病院 緩和ケア診療部 副部長)</p> <p>< 展示他 ></p> <p>◆ ギャラリー: 緩和ケアの過去・現在・未来をデジタル紙芝居とパネルで展示</p> <p>◆ クイズラリー: ギャラリーの展示内容から回答、回答者へノベルティ配布</p> <p>◆ 北海道のがん診療連携拠点病院のポスター展示・各病院資料の展示と配布</p> <p>◆ 緩和ケア相談サロン: 緩和ケアについて医療者に気軽に相談</p>	

- ◆ 団体 PR ブース：北海道の 7 患者団体と札幌市・北海道、及び日本緩和医療学会の資料設置
- ◆ 各種緩和ケア普及啓発動画の上映：館内常設の大型ビジョンで随時上映

効果について(アンケートの結果など)

《アンケートでの意見(抜粋)》

- ◆ 通りがかりの参加者が約半数を占め、沢山学べて良かったという意見や今後もこのような啓発をして欲しいという意見が多数あった。また看取りの時期にある方の、緩和ケアを多くの人に知って欲しいという意見もあった。
- ◆ 早く知って多くの人に知らせたかったという意見があり、告知方法などを改めて検討する必要がある。
- ◆ 一般の医師ももっと緩和ケアについて知り、患者さんに勧めて欲しいという意見があった。
- ◆ 緩和ケアは終末期のものと思うと知った、麻薬は怖いイメージだったが正しい使い方をすれば良いものを知った、など今までの誤解がとけたという声を多く頂いた。症状の重い方の心のケアは重要と患者さんに寄り添う意見や、病气や痛みと上手く付き合いたいという意見、患者自身もできる限り学ぼうという前向きな声があった。
- ◆ リラックスして気軽に参加できたとイベントに好意的な意見が多いが、宣伝音により発表が聞き難いという意見、スライドが小さく色使いも見難いという意見、座れる場所が少ないという意見を頂いた。頂いた意見は今後より良いイベントをするため、運営に生かしていきたい。

その他報告

当日は多くの方に参加頂き、大変盛況なイベントとなった。またイベント以外の施設来場者にも緩和ケアを知って頂けるように、会場常設の大型ビジョンでは緩和ケア動画を随時上映した。幅広い世代の人が緩和ケアに興味を持ち、正しい知識を得て頂けるように、下記のような多角的なアプローチを実施した。

【街かど緩和ケア講座・プレゼンテーション】

必要な時はスムーズに緩和ケアを受けて頂けるように、緩和ケアの基本知識や医療用麻薬への誤解の解消、がん医療や緩和ケアにかかるお金の問題、治療中の仕事や就労の問題、患者会についての話を各専門家がわかりやすく行った。講座間のイベントプレゼンテーションで、本学会緩和ケア普及啓発 WPG 員が緩和ケアの基礎知識を紹介して中途参加者も講座内容が理解しやすいように配慮した。

【ギャラリー・がん診療連携拠点病院の緩和ケアへの取り組み紹介】

ギャラリーではデジタル紙芝居とパネル展示で、過去・現在・未来の緩和ケアに興味を持って頂き、10年後の緩和ケアへの考えや希望を来場者に記入頂き未来パネルへ掲示した。緩和ケアの知識を得て頂けるよう、パネル内容を基に回答できるクイズラリーを企画し、回答者にはオリジナルエコバックをプレゼントして見学のモチベーションを高めた。

道内のがん診療連携拠点病院での緩和ケアへの取り組みも知って頂くため、北海道のがん診療連携拠点病院の緩和ケアへの取り組みについてパネル展示して、興味を持った方には各病院の資料を自由に持ち帰って頂いた。

【緩和ケア相談サロン・団体 PR ブース】

緩和ケア相談サロンはオープンスペースとして、参加者が予約なく医療者に気軽に相談できる場とした。また相談の場としてだけでなく患者会の方が交流したり、子供連れの方が休憩したりするフレキシブルな場とした。

団体 PR ブースでは、北海道の 7 患者団体(あけぼの会北海道支部、特定非営利活動法人キャンサーサポート北海道、一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン北海道支部、NPO 法人市民と共に創るホスピスケアの会、市民のためのがん治療の会 北海道支部、特定非営利活動法人パンキャンジャパン 北海道アフィリエイト、北海道肺がん患者と家族の会)の資料、北海道・札幌市が実施するがん検診等の資料、日本緩和医療学会の資料を展示して、緩和ケアに関する情報を幅広く得られるような場とした。

● 当日の写真

